

(1) プログラムの実施スケジュール

日程	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
	8月6日(日)	8月7日(月)	8月8日(火)	8月9日(水)	8月10日(木)
午前	水沢江刺駅集合	開講式 広聴広報係ヒアリング 商業観光課ヒアリング 元気戦略室ヒアリング	牛の博物館 牛肉生産者ヒアリング	(予備日)	リハーサル
午後	後藤新平記念館 平泉方面見学	宇宙遊学館・天文台 田んぼアート見学 及源鑄造 伝統産業会館 水沢江刺駅見学	特別講義 高野長英記念館 奥州市観光物産協会	中間発表	政策提言発表会 解散
夜		歓迎会			

(2) プログラムの内容要約・取り組んだ課題

2017年度「フィールドスタディ(地域自立・実習)」は岩手県奥州市で実施されました。4泊5日のスケジュールで現地を訪問し、最終日に市長を始めとする奥州市役所の方々に向けて政策提言を行うという授業です。今年のテーマは「市に縁がある人物とのコラボレーションによる市のPR戦略」でした。参加者の内訳は早稲田大学の学生7名と奥州市役所の職員の方2名の合計9名です。9名が2班に分かれ、同じテーマ(前述)を元にして現地視察・討論等を行い、最終日に各チームが政策提言を行います。

私が所属するチームは、「市に縁がある人物は奥州市民ではないか。」という仮説を立て、奥州市民による市の魅力の発信について具体的な提案をしました。共通のテーマからチーム独自の仮説を導き出し、提案の詳細を決定するまでに多くの時間を要しました。

決定した提案内容をもとに、5人で分担し50枚程度の資料を一晩で完成させ、提言当日に挑みました。

チームは、様々な経歴・経験を持つ人で構成されています（多種多様な職業の社会人や、様々な大学を卒業後早稲田大学に入学したストレートマスター等）。経歴や経験が異なれば、意見内容も必然的に多様性を持ちます。テーマが「市のPR戦略」ということもあり、市のアピールポイントとなるものを視察したり、関係者からの話を伺うなどしました。そこで目にしたもの、耳にした情報が同じでも、先に述べた理由により、異なった意見が出てくるのです。討論を通して、異なる意見を一つの提案にまとめるという作業はチーム一人一人の「合意形成」のスキルを高めます。この「合意形成」は社会で最も重宝するスキルの一つではないかと考えます。

（3）参加して得た成果、感想

私が本授業で得た成果は、「成功は行動に比例する」ということです。4泊5日の活動内容ですが、第1日目～第4日目には現地の様々な場所を視察、チームで集まり考察・討論を行い、第5日目（最終日）に政策提言を行いました。政策提言成功の秘訣は「政策提言の前日の夕方ぎりぎりまで積極的にフィールドワークを行うこと」だと考えます。

初日から視察を重ね、第2日目からは徐々に提言のテーマが固まってきましたが、自身の経験を通して、時間の許す限りテーマとは一見関連性が無いと思われる場所にも足を運ぶことが大切だと感じました。行動量に比例して情報量は増えます。そして情報量の多さにより仮説は強化され、必然的に提言内容も充実します。

（4）プログラムのおすすめポイント等

東京から出て行うフィールドワークのおすすめポイントは、日常生活ではできない経験ができることです。例えば、現地の関係者からの聞き取り調査です。現地の方から直接伺う情報はとても貴重なものです。また地方自治体と連携した授業そのものも、日常生活では得ることのできない情報を与えてくれる貴重な機会です。

個人的に貴重な経験としては、「市長の定例会見に記者と並んで参加できたこと」や「市長と歓迎会の場で一対一で呑めたこと」です。約一時間、市長と直接お話しする機会を得ることができ、『地域自立』について市長という立場からの視点やビジョンなど、多くの学びを得ることができました。